メールニュース　2025年　8月8日付　NO.25220

第9回東北地区船員就職支援懇談会・官学労使で情報共有

6月13日、ハーネル仙台で、第9回東北地区船員就職支援懇談会が開催された。本懇談会はこれまで「船員教育機関、海運・水産会社等関係者との懇談会」という名称で開催されていたが、議論の方向性をより明確化するため、今回から「東北地区船員就職支援懇談会」と改称して開催した。

懇談会には船員教育機関から7人、東北運輸局1人、水産庁1人、水産会社などの関係者29人、海員組合執行部9人の計47人が出席した。

開催にあたり、髙橋雅幸東北地方支部長は「本懇談会も9回目を迎え、議論の方向性をより明確化するべく名称を改めた。現在、少子化による労働人口減少が続く中、水産業界においても後継者の確保は喫緊の課題となっている。本日の懇談会が後継者の確保・育成・定着の一助となればと考えているので、忌憚のない意見をお願いしたい」とあいさつした。

続いて、髙橋健二水産局長が「コロナ禍で開催できなかった年もあったが、毎年、本懇談会を開催してきた結果、意識の共有が進み、最近は地元の水産会社へ就職する学生も増えてきた。また、全国漁業就業者確保育成センターが主催する漁業ガイダンスを始めとして、各社が後継者となる学生達に漁業の魅力を伝えられるようチャレンジする機会が増えてきたことは大変良いことだと思う。本日は皆さんと後継者の就労・定着に向けた取り組みを共有できるような会議とするべく、積極的な意見交換をお願いしたい」とあいさつした。

懇談会では、東北運輸局から東北管内の求人・求職状況について報告がなされ、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターからは、学生向け漁業ガイダンスの実施状況や参加した学生の意見について報告が行われた。また、一般社団法人大日本水産会からは、水産庁補助事業として、水産高校本科卒業生を念頭に置いた4・5級海技士の養成コースについての説明が行われた。

教育機関側からの主な意見

▽現状、水産産業へ就職することに対して保護者の理解が得られにくいことに対する新たなアプローチとして、これまで説明に行っていなかった中学校へ説明に行き、入学希望者の裾野拡大に努めた。

▽専攻科の学生を対象とした長期インターンシップのような取り組みが実施できれば、実習船と社船の違いを埋める一助になると思う。

▽水産庁の4級・5級海技士養成コースに関し、会社において実施可能な場合、求人情報の備考欄に記載してもらえると、学校としては生徒に説明しやすい。

「海員だより」